

生きているのは現存する者！

福音の喜びは、イエスに出会う人々の心と生活全体を満たします。イエスの差し出す救いを受け入れる者は、罪と悲しみ、内面的なむなしさと孤独から解放されるのです。福音の神髄にわたしたちを導くベネディクト十六世の言葉を何度でも繰り返しましょう。「人をキリスト信者とするのは、倫理的な選択や高邁な思想ではなく、ある出来事との出会い、ある人格との出会いです。この出会いが、人生に新しい展望と決定的な方向づけを与えるからです」。

教皇フランシスコ

家にいて告知を受けたあの少女のこと、のことを想像してみよう。聖母を。最終的には自分の現在を織り成している過去の出来事から導き出されたものではない何かであった。羊飼いたちが天使のお告げによって聞いた言葉を、あるいは星というしるしによってお告げを受けた博士たちのことを想像してみよう。徹底的な新しさ、次元のまったく違う新しさ。存在するはずがないのにここに。そんなことは考えられたこともなかった。存在するはずがなかった。考えることもできなかったものがここに。

キリスト教はその告知の出来事である。わたしが感じるからというのではなく、何よりも、わたしに差し出されるから告知なのである。わたしたちの外部にある何かであり、わたしたちの心の深いところに勤めとしてやってくる。だが、わたしたちの外にあるものだ。

キリスト教はあなたのいのち・人生の内の存在であり、想像できない、想像のしようがない変化を保証する存在である。

ルイジ・ジュッサーニ



エリアとヨハネ・ガジーニ
博士たちの礼拝 (1457)、オレフィチ通り、
ジェノヴァ Foto: Genovastudio